

2016年度台湾日本語文学国際学術研討会
—「日本語文学研究と社会との連携」—
プログラム

日時：2016年12月17日 場所：輔仁大学国壘楼2階国際会議ホール

08:30~08:50		受 付			
08:50~09:00		開 会 式 (国壘楼2階 MD227 国際会議ホール) 頼 振南 (台湾日本語文学会理事長・輔仁大学外国語学部長) 浜田 隆 (公益財団法人交流協会台北事務所 総務部長) 奥村 訓代 (日本比較文化学会会長・日本高知大学教授)			
09:00~09:50		基 調 講 演 1 (国壘楼2階 MD227 国際会議ホール) 司 会：黄 翠娥 (輔仁大学教授) 講 師：佐倉 由泰 (日本東北大学教授) トピック：リテラシー史研究の意義と可能性			
09:50~10:00		ティ ー ・ ブ レ イ ク			
10:00~10:50		基 調 講 演 2 (国壘楼2階 MD227 国際会議ホール) 司 会：頼 錦雀 (台湾日語教育学会理事長・東吳大学教授) 講 師：西郡 仁朗 (日本首都大学東京教授) トピック：東京の言語景観と留学生から見た多言語対応状況—2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて—			
10:50~11:40		基 調 講 演 3 (国壘楼2階 MD227 国際会議ホール) 司 会：落合 由治 (淡江大学教授) 講 師：日比 嘉高 (日本名古屋大学准教授) トピック：グローバル化の中の日本文化研究を考える			
11:40~12:10		台湾日本語文学会 会員大会		ポスター発表 11:40~12:30	
12:10~13:10		昼 食			
午後の部					
13:10 13:15 13:35 13:55	13:10 13:15	第一会場 国壘楼 MD212 教室 第一セッション 座 長：林 雪星 (東吳大学教授)	第二会場 国壘楼 MD213 教室 第二セッション 座 長：齋藤 正志 (中国文化大学副教授)	第三会場 国壘楼 MD214 教室 第三セッション 座 長：羅 曉勤 (銘伝大学副教授)	第四会場 国壘楼 MD215 教室 第四セッション 座 長：林 慧君 (台湾大学教授)
	13:15 13:35	発表者：王 憶雲 (淡江大学助理教授) 「問題文芸」と早稲田派 —大正期の自然主義への 視点	発表者：黃 佳慧 (文藻外語大学助理教授) 近世初期における詩題俳 諧の発端—『みなし栗』か ら『あら野』へ—	発表者：山下 明昭 (日本香川大学教授) 複合辞「となる」の習得支 援—認知言語学からのア プローチ—	発表者：譙 燕 (北京外国語大学教授) 現代中国語における日本 語借用語の受容状況と借 用形式について
	13:35 13:55	発表者：曾 秋桂 (淡江大学教授) エコリティシズムから 読む有吉佐和子『複合汚 染』	発表者：趙 宣映 (韓国培材大学校副教授) 日本語教育における川柳 の活用に関する一考察	発表者：早矢仕 智子 (韓国大真大学校助教授) 日本人大学生との交流学 習実践—韓国人学習者の アンケート調査の分析を 中心に一	発表者：施 建軍 (北京外国語大学教授) 中日同形語辞書における 中日間意味用法相違の描 写について

13:55 14:05	質疑応答	質疑応答	質疑応答	質疑応答
---------------------	------	------	------	------

14:05~14:30	ティー・ブレイク		ポスター発表	
-------------	----------	--	--------	--

14:30 14:35 14:30 15:25 14:55 15:15 15:15 15:25	14:30 14:35	第一会場 国璽楼 MD212 教室 第五セッション 座長：楊 錦昌 (輔仁大学副教授)	第二会場 国璽楼 MD213 教室 第六セッション 座長：陳 艷紅 (中央警察大学教授)	第三会場 国璽楼 MD214 教室 第七セッション 座長：陳 淑娟 (東呉大学教授)	第四会場 国璽楼 MD215 教室 第八セッション 座長：王 世和 (東呉大学教授)
	14:35 14:55	発表者：閔 丙勳 (韓国大田大学校教授) 韓国における日本古典と現代メディア—古典教育を中心に—	発表者：簡 曉花 (中華大学教授) 『現代大家武士道叢論』における佐藤対浮田論争に関する一考察	発表者：魏 志珍 (中華大学助理教授) 外来語の学習と指導に対する日本語教師のピリーフ—台湾の大学日本語教師を対象に—	発表者：小針 浩樹 (輔仁大学助理教授) コンピュータ文と助詞「こそ」の関係
	14:55 15:15	発表者：戸田 一康 (真理大学副教授) 水上瀧太郎の『山の手の子』—移動する<私>—		発表者：奥村 訓代 (日本高知大学教授) 日本語教育の底辺を広げる—方法の模索	発表者：王 怡人 (東海大学助理教授) 学習者の目線から見たスキル向上を目標としないコミュニケーション授業—PAC 分析による聞き取り調査から
	15:15 15:25	質疑応答	質疑応答	質疑応答	質疑応答

15:25~15:35	ティー・ブレイク			
-------------	----------	--	--	--

15:35 16:30	15:35 15:40	第一会場 国璽楼 MD212 教室 第九セッション 座長：范 淑文 (台湾大学教授)	第二会場 国璽楼 MD213 教室 第十セッション 座長：董 莊敬 (文藻外語大学副教授)	第三会場 国璽楼 MD214 教室 第十一セッション 座長：富田 哲 (淡江大学副教授)	第四会場 国璽楼 MD215 教室 第十二セッション 座長：黄 英哲 (台中科技大学副教授)
	15:40 16:00	発表者：坂元 さおり (輔仁大学副教授) 船戸与一論—ハードボイルド・ミステリーが描く〈台湾〉—	発表者：荒木 晴香 (世新大学助理教授) 台湾の自然・文化遺産に関する観光人類学的研究—日本の世界遺産研究からその展望を探る—	発表者：伊藤 龍平 (南台科技大学助理教授) 日本統治下台湾の昔話集編纂事業—国語教育から郷土教育へ—	発表者：東寺 祐亮 張 晨迪 (日本九州大学専門研究員 博士後期課程在籍) 日本語と中国語の比較相関的解釈の成立条件

16:00 16:20	発表者：落合 由治 (淡江大学教授) 表現史から見た日本語文章表現の発達—ライトノベルを中心に—	発表者：沈 美雪 (中国文化大学副教授) 台湾の大学教育における日本サブカルチャーの講義および研究—社会との連携を考えつつ—	発表者：山田 実樹 (世新大学助理教授) 日本統治期台湾の初等国語教科書における一人称代名詞—第1・3・5期を対象として—	発表者：呉 秦芳 (真理大学副教授) 日本人母語話者の談話標識—「みたいな」の一考察—意味論・統語論・語用論・ポライトネスの観点から—
16:20 16:30	質疑応答	質疑応答	質疑応答	質疑応答

16:30~16:40	ティー・ブレイク
-------------	----------

パネルディスカッション

16:40~17:40	<p>テーマ：日本語文学研究と社会との連携 (国壘楼2階MD227 国際会議ホール)</p> <p>モデレータ： 頼 振南 (台湾日本語学会理事長・輔仁大学外国語学部長)</p> <p>パネリスト① 佐倉 由泰 (日本東北大学教授)</p> <p>パネリスト② 西郡 仁朗 (日本首都大学東京教授)</p> <p>パネリスト③ 日比 嘉高 (日本名古屋大学准教授)</p> <p>パネリスト④ 早矢仕 智子 (韓国日本語学会副会長・韓国大真大学校助教授)</p> <p>パネリスト⑤ 関 丙勳 (韓国大田大学校教授)</p> <p>パネリスト⑥ 八尋 春海 (日本比較文化学会九州支部長・日本西南女学院大学教授)</p>
17:40~17:50	<p>閉会式 (国壘楼2階MD227 国際会議ホール)</p> <p>横路 啓子 (輔仁大学日本語文学科主任)</p>
17:50~20:00	<p>懇親会 (新莊翰品酒店)</p>

ポスター発表 一回目 11:40~12:30 二回目 14:05~14:30 (国壘楼2階広場)

発表者①：林 淑璋 / 薛 芸如 (元智大学助理教授)	テーマ：台湾人初級日本語学習者向けの多読授業における指導教員の役割について
発表者②：黄 馨儀 (中国文化大学助理教授)	テーマ：メディア社会論を取り入れた「日語翻訳(日訳中)」教材の応用
発表者③：頼 衍宏 (静宜大学副教授)	テーマ：国宝「銅造薬師如来坐像」光背銘続攷
発表者④：簡 聖雅 (輔仁大学日本語文学科修士課程)	テーマ：日本語における色彩語の研究—翻訳データベースの用例を中心に—
発表者⑤：曾 韋銘 (輔仁大学日本語文学科修士課程)	テーマ：台湾における日本文化の受容に関する考察—日本の顔文字を例に—
発表者⑥：楊 文艷 (輔仁大学日本語文学科修士課程)	テーマ：前接辞についての研究—「新」と「再」の比較

主催	台湾日本語学会・輔仁大学外国語学部・輔仁大学日本語文学科
協賛	科技部・教育部・輔仁大学研究發展処・独立行政法人国際交流基金(The Japan Foundation)・韓国日本語学会・日本比較文化学会・致良出版社・大新書局・尚昂文化事業國際有限公司
後援	公益財団法人交流協会

【大会規定】
1. 基調講演：50分
2. 論文発表：20分・質疑応答：5分
3. パネルディスカッション：各パネリスト発表5分・全体ディスカッション25分